

共に創り、生きる未来へ。

赤十字しずおか

RED CROSS SHIZUOKA



ワールドファーストエイドデー開催

9月10日(土)、駿東郡清水町のサントムーン柿田川を会場に地元清水町消防本部と共催で、ワールドファーストエイドデーを開催しました。



▲ AED体験コーナー

会場では、静岡県赤十字奉全奉仕団や清水町赤十字奉

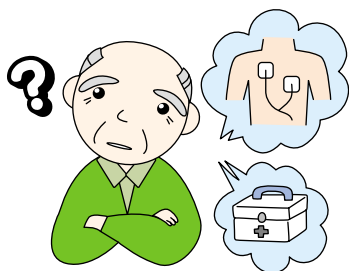
仕団、静岡市青年赤十字奉仕団の協力のもと、AED(自動体外式除細動器)を使用した蘇生法等の実技体験・ラジオ公開録音・包帯巻きコンテスト・映像コーナー・来場者の「愛と平和」へのメッセージ紹介等を行いました。この日は天候にも恵まれ、多くの来場者がイベントに積極的に参加し、大盛況のうちに終了することができました。

中でもAED体験コーナーには、「こういう機会でないとなんて触ることができないから」と多くの人たちが訪れ、安全奉仕

団員の手ほどきを受けながら、アナウンスに従いAEDトレーナー

を操作していました。

静岡県支部では、AEDを使用した救急法講習会も開催しており、体験コーナー同様、毎回多くの講習受講希望が寄せられ、AEDへの関心の高さが現れています。



救急法フォローアップ講習会



10月2日(日)、静岡県支部を会場に救急法フォローアップ講習会を開催しました。

この講習は、救急法救急員を対象に、救急法の知識・技術を向上し、参加者同士の親睦を深め、赤十字活動への積極的な協力者を増やしていくことを目的として行いました。

講習会は、静岡県赤十字

安全奉仕団の協力のもと、

包帯法・心肺蘇生法

など各項目の復習をした

あと、まとめとして総

合救護シミュレーション

を実施しました。



▲ 救護シミュレーション

参加者からは「あいまいだった所を確認することができ、自信がついた」「わかりやすく、楽しく学ぶことができた」といった声があがり、有意義な時間となったようでした。

12月には、家庭看護法介

助員、幼児安全法支援員を

対象としたフォローアップ講習

会を開催します。

家庭看護法・幼児安全法を紹介します



健やかな老年期を過ごすために必要な知識・技術・考え方を学ぶ家庭看護法。こどもに起こりやすい事故の予防と救命手当・応急手当の方法、病気への対応の仕方を学ぶ幼児安全法。いずれも講習時間数により短期一般・養成講習があります。今年1月の幼児安全法講習会にはあのバルセロナオリンピック金メダリストの岩崎恭子さんも参加されて他の受講者と楽しく、熱心に受講しました。

また、幼児安全法では、小さ



▲ 幼児安全法を受講する岩崎恭子さん

なこどもを持つ方でも安心して受講いただけるように、静岡県赤十字看護奉仕団の協力で託児サービスを行うときもありませんので、支部までお問い合わせ下さい。

身近な人のために、自分のために、子どものために、みなさんもぜひご参加下さい。



JRC健康安全プログラム指導者養成講習会開催

中学生以下の青少年赤十字メンバーに「健康安全」を目的とした救急法の基本を広く普及するためのプログラムを設定しており「JRC健康安全プログラム」といいます。

この講習会は、児童生徒の学校生活における事故防止、事故が発生した時の応急手当の知識や技術の習得、更には生きる力を育む指導者の育成を目的としています。

教職員を対象にした、JRC健康安全プログラムの指導

者養成講習会を、10月3日(月)に静岡で、4日(火)に沼津で開催しました。



▲ 搬送の実技

参加者は、学校や園で子どもたちに学習させることをひとつでも多く学ぼうと、事故防止に心がけることや傷病者の寝かせ方・保温・搬送ならびに心肺蘇生法等について、メモを取りながら熱心に受講していました。

赤十字の生命と健康を守る講習を受講しよう <http://www.shizuoka.jrc.or.jp>

静岡県支部で開催している講習会の日程・申込方法などについては、ホームページをご覧ください。お電話でお問い合わせください。

また、救急法救急員養成講習については、現在、申込が大変多いため、抽選で受講者を決定させていただいておりますので、ご了承ください。



療養病棟この1年

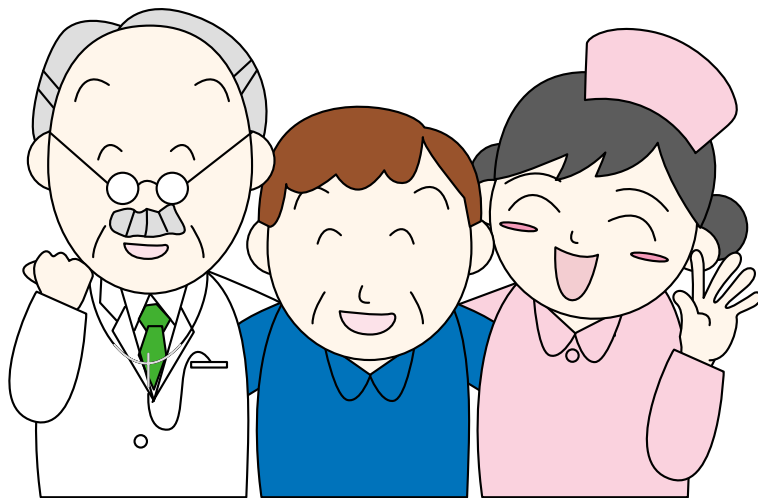
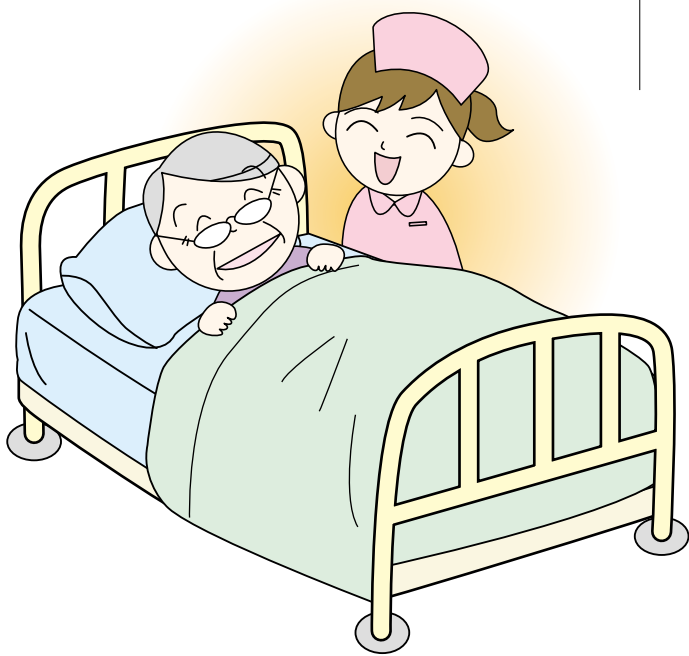
引佐赤十字病院

高齢の患者さんが地域で安心して中長期間にわたり治療を受けられる体制づくりをめざして、平成16年10月1日から療養病棟を44床開設してから、早いもので1年が経ちました。

さらに、平成17年4月からは介護療養型病床を15床導入し、入所やショートステイなどの介護保険利用者への対応等、さまざまな取り組みをしてきました。一般病棟しか

なかった病棟の、1病棟44床をシステムの違う療養病棟にしたことから、さまざまな困難や失敗を経験しました。導入当初はなかなか利用する方が増えてこなかったのですが、平成17年度に入り、地域にも認知されたことから、現在では85%を超える病床利用率となっています。

これからも赤十字病院として、診療のみならず「健康」「福祉」「介護」の面でも当院の理念に基づいた地域サービスを提供していきたいと考えています。



栄養サポートチーム(NST)の活動

静岡赤十字病院

チーム医療の一環として栄養サポートチーム(NST || Nutrition Support Team)が活動をしています。

NSTは、医師・看護師・栄養士・薬剤師・検査技師などの各専門スタッフが、それぞれの知識や技術を出し合い、患者さんにとって適切な栄養管理を行うチームのことです。

病気のため食欲が湧かない、ものがうまく飲み込めないなど、何らかの理由で食べられない、食べる量が減ってしまう患者さんがいます。すると次第に体力が低下し、寝たきりになってしまう人もいます。NSTは、まず患者さ

んの栄養状態を調べ、それぞれの患者さんにとって最適な栄養管理方法を選択し、継続して支援します。栄養状態が悪いと、免疫力が低下し病気が治りにくくなり、手術後の回復も遅れます。また、感染症にかかりやすくなったり、床ずれができやすくなったり、正しい栄養管理により体力が回復し、合併症を防いで早期退院も可能になります。

患者さんの体重や病状の変化と栄養状態などを、きめ細かに管理をしていると、目に見える効果が実感され、スタッフはやりがいを感じています。新しい情報を収集して勉強

したり、試行錯誤の中で、よりよい方法を工夫したりと、活発に取り組んでいます。

当院での導入は平成14年で、当初は中心となるスタッフが手探りで活動を始めましたが、次第に職員間にNSTに対する考え方が浸透し、現在は病院全体の取り組みとして定着しています。月に1度の勉強会も、関心を持って参加する人が増えてきました。今後は、この取り組みを院内だけに終わらせず、在宅医療の中で生かしたり、地域の診療所や老人保健施設などとの連携にも積極的に役立てていきたいと考えています。



▲入院患者に届けられる「お見舞いメール」



メールサービスを活用ください

静岡赤十字病院のホームページ上で「お見舞いメール」の受付をしています。8月中旬のホームページのリニューアルに伴い、患者さんの心を和ませ、入院生活の彩りになればと、新たな患者サービスとして実施しました。

遠方でなかなか見舞いに行けない、ちょっとした励ましの言葉を

送りたい、という方に代わって、電子メールで送られたメッセージを印刷し、封筒に入れて、職員が入院患者さんの枕元にお届けします。お届け用紙のデザインは4種類あり、出産祝いや入院中に誕生日を迎えた方のためのお祝い用のデザインも用意しました。

メールを受け取った患者さんか

らは、「思わぬ人からのメッセージにびっくりした」、「きれいなメールでうれしい」という声が聞かれ、

利用者も増えていきます。ぜひともご利用ください。詳しくは下記ホームページまで。

生化学自動分析装置を導入



裾野赤十字病院

平成17年度 社団法人日本損害保険協会寄附金による交通災害等救急医療機器整備事業補助金を受けて、生化学自動分析装置を更新整備しました。

今回更新した装置は、最新のシステムであり、今まで以上に精度の高い検査数値の測定が可能で、より正確な診断の一助となります。また、血液分析スピードが飛躍的に向上しており、患者さんの検査待ち時間の短縮にも繋がると期待しています。外来・入院患者さん以外にも、人間ドック・市民健康診断等幅広く活用することができ、地域住民の皆さんが期待する医療の提供に応えることが出来ると確信しています。



▲ 社団法人日本損害保険協会の寄附により整備された生化学自動分析装置

オータムコンサートの開催



浜松赤十字病院

毎年恒例となっている院内コンサートを9月10日(土)に開催しました。

浜松学芸高校音楽科の皆さんがミニ・オペラと、ピアノ、フルート、ホルン、ファゴット等の楽器を使い9曲を演奏しました。最後に演奏者、患者、病院職員全員で童謡「赤とんぼ」を合唱し、大変盛り上がりました。なかでもミニ・オペラは好評で、台本、挿入曲ともに浜松学芸高校の先生のオリジナル作品です。劇中の掛け合いあり、ダンスありと今までにない躍動感のあるコンサートとなりました。

入院中の患者さんからは「素晴らしい気分転換になりました。ありがとう。」との言葉をいただきました。



▲ コンサート風景



転倒予防教室

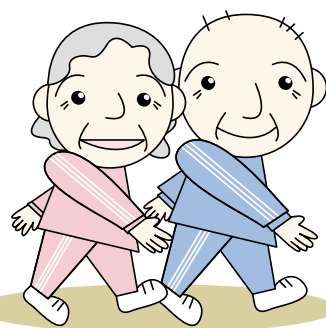
伊豆赤十字病院



▲ ボールを使ってのレクリエーション

本年7・8月に、伊豆市から委託で行っている介護予防・地域支え合い事業のひとつである「転倒予防教室」の第1クールを開催しました。

「転倒予防教室」は、高齢者ができる限り要介護状態になることなく、いきいきとした生活を送れるよう、転倒・骨折を予防する目的で行われています。伊豆市を4地区に分け、年間各地区3クール実施される予定です。当院は修善寺地区の担当です。理学療法士が中心となり看護師・市職員と協力して運営しています。



今回は12名の参加があり、健脚テスト(10m全力歩行最大歩幅・踏み台昇降・開眼片足立ち・つぎ足歩行)や講義、個別指導、集団体操等を行いました。

教室終了後のアンケート調査では「効果があった」「今後運動を続けたい」という声が寄せられ、転倒予防に関する知識・運動について理解を深めることができました。また、当初は緊張気味であった参加者も徐々にうちとけ、楽しく受講されていました。

今後も地域に貢献し、その期待に応えられるよう努力していききたいと思います。



スマトラ島沖地震・津波災害救援活動と 救援金使途内容の報告

平成16年12月26日、22万人の死者行方不明者、200万人を超える被災者をもたらした未曾有の大災害、スマトラ島沖地震・津波災害から10ヶ月が過ぎました。

日本赤十字社は災害発生直後から医療救援班延べ105名を現地に派遣し、1万人を超える被災者の診療や救援物資の配布、仮設住宅の建設支援にあたりました。

その間に皆様から日本赤十字社に寄せられた救援金は、97億9300万円(うち静岡県支部扱い4600万円)にものびりました。

現在、被災地では徐々に復興への歩みが始まりつつありますが、依然として災害の爪あとが大きく、未だ生活全般の支援を必要としている被災者は90万人以上に及びます。日本赤十字社は、こうした人々の生活再建や将来の災害への備えを行うことを目的に、2010年を目途に、救援から復興へ切れ目のない支援を展開していきます。

また、皆様からお寄せいただいた救援金は、以下の事業に充当させていただきます。

- 災害直後からの医療活動や生活支援
(4月末までの医療救護班等の派遣や救援物資の提供)
.....7億2,300万円
- 平成17年度の復興支援
(現在も避難生活を強いられている90万人を超える人びとへの支援)
.....41億7,500万円
- 今後、中・長期的に行う復興支援
(保険医療衛生、生活再建、災害対策、被災児童の支援など)
.....48億9,500万円

総計 97億9,300万円 皆様の善意に心から感謝申し上げます。





血液センターからのお知らせ

●献血実施団体(会社・団体等)を募集しています

「社内の福祉活動の一環として、会社がかかできることはないか?」
「献血したいという仲間はいませんか?」
「献血したいという仲間はいませんか?」

血液センターでは、献血にご協力いただける会社・団体等を募集しております。

献血バス設置のスペース(長さ11m×幅3m×高さ43cm)を確保していただければ、献血の協力人数により、1時間から最大で6時間(概ね9時~4時の間)献血バスがお伺いします。
まずは一度ご連絡下さい。

●クリスマスつなげる命のボランティア

『全国学生クリスマス献血キャンペーン』を県内3会場にて開催します。
当日は、各会場とも学生ボランティアを中心に、趣向をこらしたイベントが行なわれる予定です。

新血液法の施行、英国渡航歴のある方の受入れ制限の実施に伴い、一層献血推進が必要とされています。併せて、これから春先までの期間には例年血液が大変不足する時期です。輸血用の血液は皆様方の献血によって支えられています。献血にご協力をお願いします。

●英国渡航歴のある方の献血受入れ制限について

日頃から献血にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

英国渡航歴のある方の献血の受入れにつきましては、「変異型クローイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)」の症例について、新たな安全性に関する情報が得られるまでの当分の間、1980年から1996年までに通算1日以上または1997年から2004年までに通算6ヶ月以上の英国滞在歴のあることが確認できた場合は、献血をお断りさせていただきます。

この措置により、献血をお断りさせていただきます。皆さまには深く感謝申し上げます。同時に、輸血を受ける患者さんの安全性を確保するための当面の措置であることをご理解いただき、ようお願い申し上げます。

安全な血液を患者さんへお届けするためにも、問診の際には正しく申告いただきますようお願い申し上げます。
なお、国内における変異型クローイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)等に関する情報は、厚生労働省ホームページに掲載されています。

URL : <http://www.mhlw.go.jp/index.html>

<静岡県内>

中部 静岡県赤十字血液センター 献血推進課 渉外係
☎054-247-7142

東部 静岡県沼津赤十字血液センター 管理課 渉外係
☎055-924-6611

西部 静岡県浜松赤十字血液センター 献血推進課 渉外係
☎053-421-3151

※日時については、医療機関の輸血用血液使用予測に基づき、順次献血実施計画が決まっておりますので、必ずしもご希望の日程に添えない場合もあります。

<会場>

東部 12月18日(日) サントムーン柿田川

中部 12月18日(日) 静岡市葵スクエア

西部 12月10日(土) JR浜松駅北口広場



平成17年度地区区分 災害救護用自動車贈呈式



日赤静岡県支部では、災害時における被災者の救護活動に、また一般赤十字事業(奉仕団活動、青少年赤十字活動、救急法等普及、血液事業等)の推進を図るために、昭和62年から各市町(地区区分)に災害救護用自動車を寄贈しています。

今年度は9月16日(金)に贈呈式を開催し、矢崎事務局長から代表の岡部町区分の(同町社会福祉協議会)長谷川会長にゴールドキーが手渡されました。(写真)

贈呈されたのは、伊豆の国市、菊川市、磐田市、吉田町、岡部町、東伊豆町、掛川市(2地区)、浜松市(2地区)の地区区分です。



▲ゴールドキー贈呈式

平成17年度 静岡県・焼津市総合防災訓練開催



今年度の訓練は9月1日(木)に焼津市を中心に県下各地で行われました。本年度より新潟県中越地震・スマトラ島沖地震をふまえ、焼津市の地域性に合わせた多会場分散型の訓練となりました。

日赤静岡県支部からは、静岡赤十字病院救護班、静岡県赤十字安全奉仕団、静岡県無線赤十字奉仕団が参加し、日赤医療センター救護班が空路自衛隊ヘリで応援にかけつけました。

焼津市清見田公園会場において、救護班によるトリアージ・医療救護訓練、安全奉仕団による焼津中学校生徒・自主防災組織への担架搬送等の指導、無線奉仕団による通信訓練などを行いました。



▲医療救護訓練